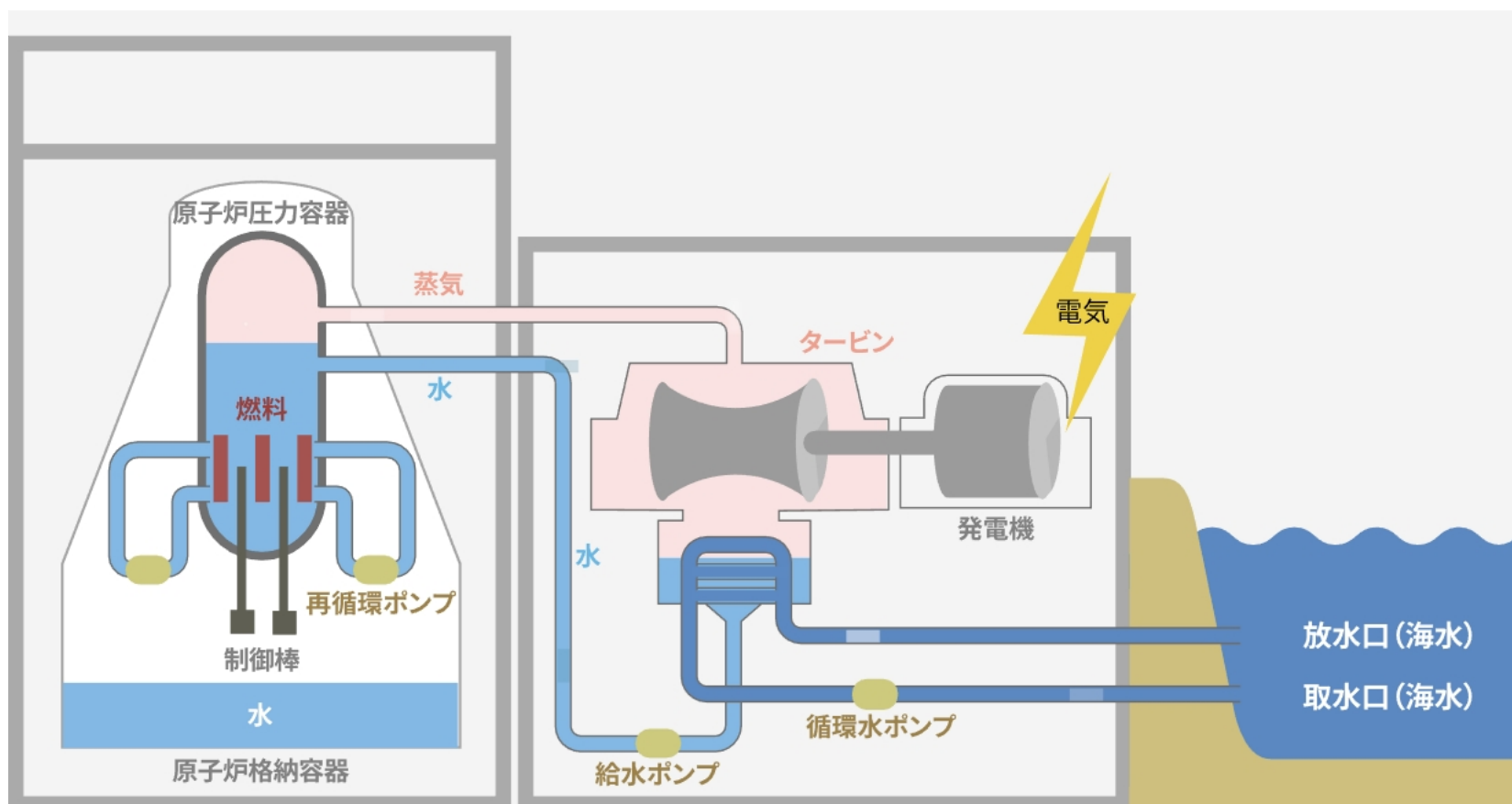


沸騰水型原子炉（BWR）のしくみ



現在、日本で使用されている原子炉には、沸騰水型原子炉（BWR）と加圧水型原子炉（PWR）の2種類があり、それぞれ蒸気を発生させるしくみに違いがあります。

沸騰水型原子炉（BWR）では、原子炉内で冷却水を沸騰させ、発生した蒸気を直接タービンに送って発電します。この沸騰水型原子炉（BWR）をもとに、安全性や経済性をさらに向上させた改良型沸騰水型原子炉（ABWR）が開発されています。この原子炉では、冷却水を循環させるポンプを原子炉内に組み込むとともに、制御棒を動かす新しい駆動装置を採用しています。また、原子炉格納容器は原子炉建屋と一体化した鉄筋コンクリート製とされ、耐震性が向上しています。

沸騰水型原子炉（BWR）は、東北電力、北陸電力、東京電力、中部電力、中国電力、日本原子力発電で採用されています。

改良型沸騰水型原子炉（ABWR）は、北陸電力、東京電力、中部電力で採用されているほか、中国電力や電源開発でも導入が予定されています。